

桜の知識

1. サクラとは

(1) 分類学的には

動物や植物など生物の分類には、「科」という単位が使われます。さらに科の中を分ける単位として「属」、属の中を分ける単位として「種」があります。普通、「この木は何ですか」、という時の答えになるのが種です。

サクラは、イチゴやバラと同じ仲間バラ科に属する植物で、サクラ属というグループです。



バラ科の特徴としては、その花の基本的な構造として、(1) 大きな花弁が放射状に5枚あることと、(2) ひとつの花の中に雄しべと雌しべを持つ両性花であること、があげられます。

なお、このような特徴は野生種の形態の話であり、バラやサクラの栽培品種には当てはまらないものもあります。

バラ科の中にも色々な仲間があります。バラやイチゴ以外にも、リンゴなどサクラとよく似た仲間があります。これらの中からサクラの仲間（属）を区別するのは、基本的には「雌しべが1本」という特徴です。リンゴの花が咲いているところとサクラが咲いているところを遠くから見るとよく似ていますが、リンゴの実とサクランボを比べてみると違いがよく分かります。リンゴの実には中央部に複数のタネがありますが、サクランボは中に大きなタネが一つだけです。

このようにして、サクラの仲間（属）を区別（分類）するわけですが、それでは同じように実の中央にタネが一つだけあるウメやモモはサクラと同じ属になるのでしょうか。これらは同じ属に分類される場合もあります。この場合サクラは*Prunus*属に分類されます。

ここでアルファベット表記が出てきましたが、生物を分類する学名というのは、このようにラテン語で表記したものです。研究者が日常的に使っている「オオシマザクラ」などというのは学名ではなく、標準和名というものです。

ところで、この*Prunus*属はサクラ以外にもウメやモモを含むこととなりますので、400種以上もある非常に大きい属です。その中でモモやウメ、スモモ、サクラなどはやはりそれぞれ少し違うだろうということで、最近ではサクラは*Cerasus*属として区別する場合があります。どこが違うかということですが、ここでまたサクランボとウメあるいはモモの実を思い浮かべて下さい。すぐ気がつくのはサクランボには長い柄がついている、ということです。ところで、サクランボをサクラの代表のように書いていますが、サクランボはセイヨウミザクラというサクラの仲間の実です。セイヨウミザクラでなくても公園に咲いているサクラでも、花が終わってからよく見ていると、小さなサクランボのような実がなっていることがあります。この実には間違いなく長い柄がついているは



(写真1)

ずです。このことに気がつくと、花の状態を見てもウメの花やモモの花とサクラの花を区別することが出来ます。もちろん、開花の時期もそれぞれ少しずつずれていますが、花が枝についている状態を見ても区別することが出来ます。ウメやモモの花は枝に直接ついているように見えますが（写真1）、サクラの花は長い柄がありますので、枝から少し離れた空間に花のかたまりがあるように見えるわけです（写真2）～（写真8）。

このようにしてサクラの属*Cerasus*の特徴が区別されます。それでは、日本に自生している野生の種でこの属に入るもの、つまり日本のサクラは種としていくつあるか、ということになりますと、ここでは沖縄県石垣島に自生地があるといわれるカンヒザクラを入れて10種ということにしておきます。他の野生種としては、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、チョウジザクラ、ミヤマザクラ、オオシマザクラ、マメザクラ、タカネザクラがあります。

以下、それぞれ簡単に説明します。ここに記載されているとおり、標準和名はカタカナで表記するのが普通ですが、意味がわかるように括弧書きで漢字表記を付けます。



(写真2)

・ヤマザクラ（山桜）；東北南部から九州に分布。公園などでも普通に見られる。白い花と同時に開き始める若葉が赤褐色であるという特徴がある。



(写真3)

・オオヤマザクラ（大山桜）；北海道から本州、四国、九州及び朝鮮半島などに分布。寒さに強く、花弁はヤマザクラより大きい。花が紅色なので「紅山桜」、北海道に多いので「蝦夷山桜」とも呼ばれる。



(写真4)

・カスミザクラ（霞桜）；北海道から本州、四国、九州及び朝鮮半島などに分布。ヤマザクラに似ているが、葉柄などに毛がある場合が多く、開花期が遅い。



(写真5)

・エドヒガン（江戸彼岸）；本州、四国、九州及び済州島に分布。春の彼岸の頃に開花し、花は白色から紅色まで変異がある。花が咲いてから葉が開く。有名な老木が多い。



(写真6)

・チョウジザクラ（丁子桜）；本州と九州に分布。花弁が短く、花の元の部分が筒型に長いため、その形を香辛料の丁子（クローブ）に見立てた。

- ・ミヤマザクラ（深山桜）；日本を含む極東地域に分布。上向きにまっすぐに伸びた柄に4～10個の小さな花を着ける。葉が開いたあとから開花する。開花期はカスミザクラよりもさらに遅い。
- ・オオシマザクラ（大島桜）；関東南部に分布。花が大きい。ヤマザクラと同じく開花と同時に若葉が開き始めるがその色が緑色なので区別できる。



(写真7)

・マメザクラ（豆桜）；富士山を中心にした関東から関西に分布。樹は低木で、花は下向きに咲く。

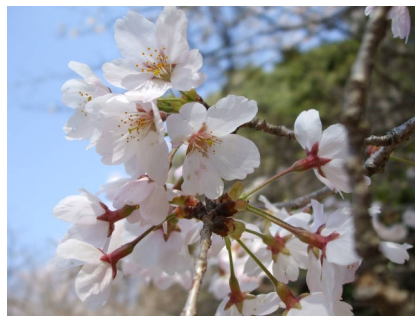
- ・タカネザクラ（高嶺桜）；北海道から本州中部及びロシア極東部に分布。花はマメザクラに似ているが、高木になる。
- ・カンヒザクラ（寒緋桜）；沖縄から中国南部、ベトナムに分布。沖縄のものは中国方面から持ち込まれたのではないかと、という説もある。花弁は濃い紅色で、開花期が早い。

(2) 栽培品種について

植物学的にいうと、日本のサクラは以上の10種です。この他に、属は異なるがウワミズザクラやイヌザクラなど、あるいは常緑のものでリンボクやバクチノキがあります。これらはサクラに近い仲間といえるでしょう。

日本の森林の調査をするときには、野生のサクラの属の植物が出てきた場合には上記の10種のどれかに分類することになります。

ところが、サクラは美しい花を着けるという特徴を持つため、観賞用に栽培されてきました。このため、八重咲きや枝垂れなど特に鑑賞に値するものが大切に保存され、増殖（接ぎ木や挿し木）されました。こうして増殖されてきたものが栽培品種です。‘染井吉野’（写真8）や‘枝垂桜’などが栽培品種で、現在では百種類ほどが広まっています。栽培品種の名前は商品名のような



(写真8)

使われ方をすることもありますので、人によって使い方が異なる場合もあります。別の名前で呼ばれていても形態的な違いはなく、同じ栽培品種もあります。このような多数の栽培品種は、カラミザクラ（唐実桜；中国産）などの外国原産の種の遺伝子が入ったものもありますが、ほとんどは10種のサクラが元になっています。

サクラの種や栽培品種を見分ける形態的特徴としては、①花弁の色や枚数など一目でわかるもののほか、②花序のタイプ、③萼筒（がくとう）の形、④萼片（がくへん）の形、⑤小花柄や花柄の長さや毛の有無、⑥葉の形態、⑦開花する時期 など多岐にわたるため、花の写真だけ見せられて、これは何かといわれても困ることがあります。

2. サクラの開花について

野生のサクラは、同じ種が同じところに生えていても個体ごとに開花がずれます。一方、同じところに生えている‘染井吉野’はほぼ一斉に開花します。これは遺伝的な違いによると考えられます。つまり、‘染井吉野’はもともと1本の木から接ぎ木などによって増やしたものですから、遺伝子は皆同じです。ところが、野生のサクラは同じ種（例えばヤマザクラなど）といっても、花粉が受精してできたタネが芽生えて育った樹ですから、それぞれの樹の持っている遺伝子は微妙に異なっているわけです。このような自然に芽生えたサクラを見ていた昔の花見は、今ほどあわただしくなかったようです。

開花の時期ですが、‘寒桜’などの早いものでは2月頃から開花します。早咲きの栽培品種は低温でも開花が可能ですが、晩秋から早春の気温の影響を受けやすいため、開花期が年により大きく異なります。さらに、花が一斉に咲いてしまわないで、長期間咲き続けるという特徴があります。逆に、八重咲きや菊咲きといわれる花弁の数の多い栽培品種は、4月下旬から5月上旬にかけて咲くものが多くなりますが、このように晩春に咲くものは、開花期の年による違いは小さいようです。

ところで花見といえば春ですが、ネパールや中国に分布するヒマラヤザクラは、日本に持ってきても11月から12月頃に花を咲かせています。また日本でも、サクラに近い常緑

樹のリンボクやバクチノキは、10月頃に花を着けます。

この3種は秋にのみ開花しますが、‘冬桜’、‘十月桜’、‘四季桜’、‘不断桜’、‘子福桜’などの栽培品種は、一部が秋に咲き、残りは春になってから咲くという特徴を持っています。これらは、秋咲きのヒマラヤザクラとは異なり、本来は春に咲くものが間違っ

平成20年9月30日
森林総合研究所
多摩森林科学園

【多摩森林科学園】

(所在地) 〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81

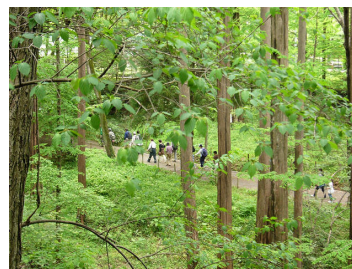
森の科学館



森の科学館内部



園内散策路



詳しくは <http://www.ffpri-tmk.affrc.go.jp/>